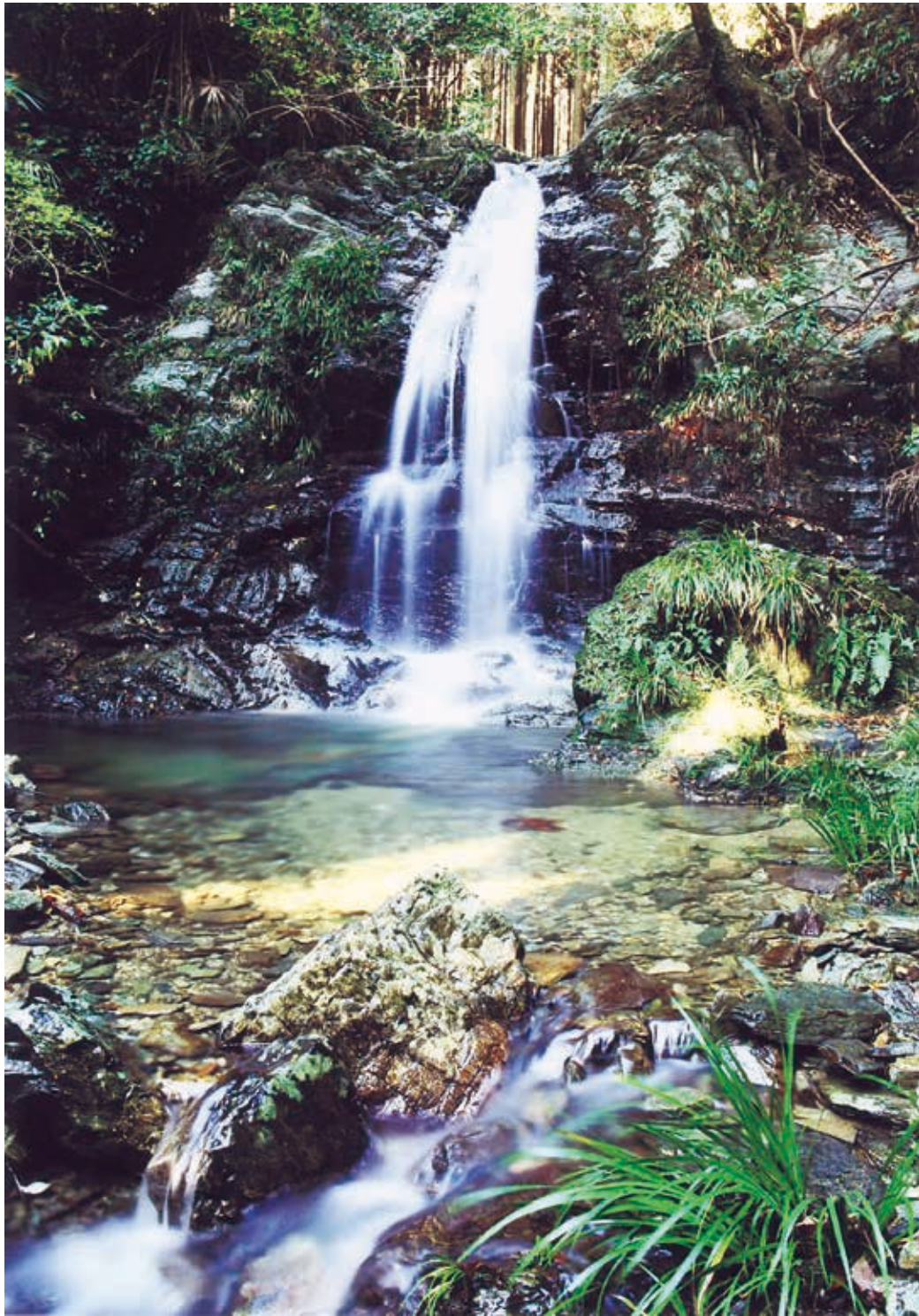


# 第45回 全日本中学生水の作文コンクール 和歌山県入賞作品集



深山溪谷

和歌山県

表紙の写真『深山溪谷』

戦国時代、秀吉の根来攻めに敗れた僧兵が隠れ住んだと伝えられています。溪谷は深く美しく、高さ1 m以上の滝が20カ所もあり、夏でも涼しいことから平地ではあまり見られない動植物も豊富です。

## いあいさつ

水は、あらゆる生命の根源であり、私たちの暮らしや産業活動を支える限りある貴重な資源です。近年では、世界的な渇水や洪水が頻発し、水利用の安定性、安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

こうしたことから、国においては、水を共有の財産と位置づけるとともに、健全な水循環の重要性について、国民の理解を深めるため、毎年八月一日を「水の日」と定め、様々な関連行事が行われています。

和歌山県では、この一環として、中学生を対象に、昭和五十四年から「全日本中学生水の作文コンクール」の和歌山県審査を実施しており、本年は、五五三編もの御応募をいただきました。

いざれも、「水について考える」というテーマにふさわしく、地域の水質改善に取り組んだ経験から学んだことや世界の水資源問題について考察したものなど、様々な視点から、水の大切さを表現したすばらしい作品ばかりでした。

これらの中から、入賞作品十八編をこのたび作品集にまとめました。家庭や学校で御活用いただき、水への関心をさらに深めていただくことを願っています。

令和五年八月四日

和歌山県地域振興監 赤坂 武彦

もくじ

優秀賞

水の大切さ

開智中学校

一年 篠崎 唯奈

・  
・  
1

命を創る水

和歌山県立向陽中学校

二年 林 津久巳

・  
・  
3

水と生き物

開智中学校

一年 山本 越己

・  
・  
5

入選

「水の大切さ」

和歌山信愛中学校

二年 植田 涼南

・  
・  
7

水の恵みを繋いでいく

和歌山県立向陽中学校

二年 太田 早紀

・  
・  
8

水の大切さ

開智中学校

一年 小原 朱加里

・  
・  
9

日本と世界の水

和歌山県立田辺中学校

三年 西 美夢

・  
・  
10

断水時の備えを大切に

和歌山県立向陽中学校

二年 村田 安咲実

・  
・  
11

水の危険性

和歌山県立向陽中学校

二年 岩橋

由奈

・  
・  
・

12

湧水

和歌山県立田辺中学校

三年 岩間

幸多

・  
・  
・

13

水を守る気持ち

開智中学校

一年 上野

和也

・  
・  
・

14

海ごみ問題について考える

開智中学校

一年 笠原

來夏

・  
・  
・

15

貴重な水資源

和歌山県立田辺中学校

二年 総村

優空

・  
・  
・

16

ギギの住む川

和歌山信愛中学校

二年 恋田

千遙

・  
・  
・

17

「ホタルの光」を届ける

和歌山県立田辺中学校

三年 鈴木

愛乃

・  
・  
・

18

人間の柱「水」

開智中学校

一年 藤田

朋也

・  
・  
・

19

生きる

開智中学校

一年 山下

穂乃

・  
・  
・

20

我が家の浄水場

和歌山県立向陽中学校

二年 山本

七夢

・  
・  
・

21

(掲載順序は五十音順です。)

## 優 秀 賞

# 水の大切さ

開智中学校 一年

しのざき 篠崎  
ゆいな 唯奈

「水の出しっぱはやめなさい」私が、よくお母さんに言われていた言葉です。手を洗う時、歯をみがいている時、お風呂に入っている時などに私はよく水を出しっぱなしにしていました。そんな時お母さんは必ずと言っていいほど、「水の出しっぱはダメ、もっと水を大切にしないさい。」と私を叱ります。私は、「すぐ終わるし別にいいでしょ。」と思っていて、お母さんがそこまで水を大事にする理由が分かりませんでした。しかしある出来事があってから私は考え方が変わりました。

それは夏休みにお母さんとお兄ちゃんと祖父母の家に行ってい

た時のことです。私が家の近くの景色や生えている植物の写真を撮るために散歩をしていると、近くの畑でおじいさんが作業をしているのが見えました。その日は、畑周りで写真を撮っていたので、畑で作業をしているおじいさんがずっと視界に入っていました。私が写真を撮っている間ずっと作業をしていて、一度も休けいせず、水分もとっていませんでした。私は朝から写真を撮りにきて、おじいさんは私がきた時には、すでに作業をしていたので朝からずっと休けいなしに作業していると思うと心配になり、「休けいしなくても大丈夫なんですか。」とたずねると、「家に水を忘れてしまった。でも平気だよ、これくらいの暑さなら。」とこたえられ、その時は、深く考えず、平気なんだなと納得しました。

しかし、だいたい一時間ぐらい経って、どんどん暑くなってきた。おじいさんが手で仰いでいたり、頭を軽く抑えていたりしていたので、熱中症にでもなったんじゃないかと思って、急いで家に帰り、冷蔵庫を開けて、中に入っていたペットボトルの水をおじいさんに持って行きました。すると「ありがとう。どんどん暑くなってきた、ちよつとしんどかったんだよ。うん、いつも飲める水なのに、いつもの何倍も美味しいよ。」ととても感謝してくれました。さっきは遠くから見ていたので気づかなかったけど、顔は赤く、汗もすごく出ていて、少しだとしても無理をしていたことが分かりました。そ



の日、おじいさんは作業を中断し、家に帰って休んでいました。私も家に帰り、今日あったことをお母さんに話すと「すごいじゃん。おじいさん、すごく感謝してたと思うよ。」とほめてくれました。当時、小学一年生だった私は、お母さんにほめられたことがただただ嬉しくて、心の中でおじいさんに感謝しました。

後日、私がいつものように散歩に出かけていると、あの時のおじいさんが畑で作業をしているのを見つけました。おじいさんも私に気づいたようで「お嬢ちゃん、あの時は、ほんとにありがとね。心の底から感謝しているよ。」と言いながら、畑で採れた野菜や果物を分けてくれました。「この畑は、おばあさんと一緒に大切に育てていた畑でな、そのおばあさんがこの前亡くなっちゃってな、無理をしても大切にできなかったんだよ。でも倒れちゃったら元も子もないもんな。いいか、嬢ちゃん、この畑で美味しい野菜や果物が採れるのは、水のおかげだ。こうして作業をしておばあさんの大切なもんを守れているのは、お嬢ちゃんがくれた水のおかげだ。人を思いやる心と水の大切さ、ああ、それから優しい心、これだけは覚えとけよ。」私は、その時初めてお母さんが水を大事にする理由が分かった気がしました。

その日から私もお母さんやおじいさんのように水を大切にしています。お母さんに水のこと怒られることもなくなりました。今

まで深く考えなかっただけで、水はとても大切であり、私達の生活にはかけがえのないものだとなりました。これから一人でも多くの人に水の大切さを分かってもらうために努力していくつもりです。ちなみにあの時のおじいさんとは今でも祖父母の家に行った時に畑の手伝いをして関わっています。

## 優 秀 賞

# 命を創る水

和歌山県立向陽中学校 二年

はやし つくみ  
林 津久巳

こうとしたときだ。

「津久巳！見ろこれ！」

興奮気味な兄が見えた。フナでもつれたのだろうか。チラツとバケツをのぞくと……そこには三〇センチメートルをこえる大きなブラックバスがいた。

「ええ!?!この池にこんな大きな魚がおったん!?!」

驚きを隠せなかった。濁っていてゴミだつて浮いている池。フナとかの在来種もほぼいなくて、ブルーギルばかりつれる池。それなのに、水底にはとてつもなく大きな魚がいた。そして、その他にもたくさんの大きな魚がつかれていた。その中の三匹のフナは家の水そうに迎えられて、一匹は今も水そうの中をゆうゆうと泳いでいる。

この前授業で、水があるだけで人間は二週間も生きていけるといふことを知った。水は人間、魚そして植物といった地球のありとあらゆる命を支えているのだと気付いた。兄のつった巨大ブラックバスは水を「飲んで」育ったわけではないが、水があつたから生きてこられた。もしも、この世界から水が消えてしまったら。そう思うと、水の偉大さを感じられる。

また、私の家は柿農家だ。柿は水をやる必要こそないが、肥料を溶かすときなどに水は必須だ。そして、畑の農作物や花にもたくさん水を使っている。どんな動物も植物も水の力に頼っているのだ

「でつかいブラックバスがつかれた！」  
兄の叫び声に驚いて家の隣の池に走った。すごい。こんなに大きな魚が池にいたんだ……。

私の兄の趣味はつりだ。小学校低学年くらいから家の隣の池で、魚をつっていた。なんとなく私もついていくことが多くて、兄と餌のミミズ堀りをよくしていた。わたしも何度かつらせてもらったことがある。けれどつれるのはいつも、小さなブルーギル。「なんだ、この池はダメじゃんか」とずっと思っていた。

ある日、兄が一人でつりに行った。つれたかな、と思って池に行



と思う。

和歌山市の水道橋が落ちたとき、和歌山市の友達が「不便すぎる」とよく言っていた。意識してみると水は生きるためだけのものではない。生活するためのものでもあると思う。お風呂、水道、洗濯、シャワーなど、私たちは水があるからこそ幸せな生活が送れていると言っても過言ではない。

水は世界の無数の命を支えてくれている。水がなければ巨大ブラクバスは巨大にならなかっただろう。水がなければ家の柿はスーパ―に並ばなかっただろう。水がなければ人間は生きられないし、幸せな生活を送れなかっただろう。水は世界を創っているような気がした。

しかし、世界中の人々の多くはそんな大切な水が不足し、苦しんでいる。水不足などを学ぶことは何度かあったため少しは知っていたけれど、断水生活やアフリカの現状を深く調べると心がすごく痛んだ。かといって、私たちが現状を大きく変えることは難しい。では、私たちには何ができるのだろうか。少しでも力になれるよう、考えていきたい。

「命を創る水」をすべての人に。

## 優 秀 賞

# 水と生き物

開智中学校 一年

やまもと えつき  
山本 越己

水といえば、僕にとって身近で僕に大きな影響やきっかけをくれた近木川です。幼い頃からよくお母さんの自転車の前の子供用の椅子に乗ってお散歩の途中に、橋の上などからサカナやカメを見て楽しんでいと教えてくれました。今もときどき、橋の上から見えます。近木川は、標高853メートルの和泉葛城山を源流とし、大阪湾まで流れ下りてきます。近木川は源流から河口まで約18キロメートルあります。また近木川はかつて1993年と1997年に「2級河川水質全国ワースト1位」と呼ばれるほど水質が悪化した時期がありました。これをバネに様々な市民活動が始まり、今も続

いています。例えば、海岸や川の清掃などがあります。僕は、その取組の一つである近木川の清掃と調査に一年生の時から今も参加しています。今では、市民活動のおかげで綺麗な川でしか生息していない「アユ」や「シロウオ」が見つかってきています。この調査で心に残ったサカナやカニを、小学校の夏休みの絵画コンクールで描いて二年連続で選ばれました。このことが自分にとってとても嬉しく、いい経験になりました。家ではこの調査で捕まえてきて飼ってもいいよと言ってくれたウナギと、ゴクラクハゼ、スジエビを飼っています。この生き物を飼うことで命の大切さがよりわかりました。この調査をきっかけに、僕は川の魚、海の魚に興味を持ち、将来の夢の一つでもある海洋生物学にも興味を持ちました。

最近海釣りにも家族とよく出かけるようになりました。川でも海でも透明度が高く、一つもゴミのない綺麗な川や海がある一方でペットボトルや花火の後の燃えカスなどのゴミがたくさんあつて水面には油が浮いている川や海もあります。さらに海では、マイクロプラスチックがたくさん浮いていて、魚が間違つて餌だと思いつみ、食べて死んでしまうということが起っています。また、マイクロプラスチックを食べた魚を人間が食べることによって、体内に入ってしまう危険性があるということも知りました。そして、カメやアザラシがゴミに引っかかって死んでしまうという悲惨なこと

が起きているということを知りました。それはとても衝撃的で、自分もよく釣りに行くので、その時に出すゴミなどについて改めて考え、魚達の生態系をどう守っていくのかも考えようと思いました。今、僕たちが使っている水の元は自然が作り出してくれた恵みなのです。僕たち人間がその水や自然を汚して暮らすことで、色々な生き物にまで迷惑をかけ、生き物の住む世界は豊かではなくなっています。このままでは、鳥、虫、魚などが住めなくなってしまう、汚い所で住む生き物しかいなくなってしまう。だから、生態系の始まりの水をこれ以上、よごすことなく環境に負担をかけず、自然が作ってくれた綺麗で生き物が豊かに暮らすことのできる水に戻していかなければならないと思いました。

けれど、今の自分だけでは何もできないので、これからは水や環境に対する知識をもっと増やし、他の人も協力して、自然が生み出す綺麗で生き物が気持ちよく住めるような水や場所をもっともっと増やしていこうと思いました。さらに、この自分にできることは何かということを考えて、小さな一歩であっても自ら行動に移していこうと思いました。そして、アユやシロウオなどが沢山住んでいる綺麗な近木川を見られるようにしていきたいです。

## 「水の大切さ」

和歌山信愛中学校 二年 植田 涼南  
うえだ すずな

私は小学五年生のとき、授業で田植えをしました。そのときは、水はどこにでも当たり前にあるものだと思っていました。だから、あまり水の大切さについて考えることはありませんでした。しかし、今回水について考えることになり、稲作ではどのくらいの水を使うのか、気になって調べてみました。

稲は一株あたり二十キログラム、十アールあたり四百トンの水を使っていることがわかりました。また、夏の暑い日だと一日に約六・五トンの水を使っているそうです。稲作だけでもこんなに水を使っていることに驚かされました。

稲作で使われる水は、どこから来るのかも調べました。すると、川の水であることを知りました。田んぼの水は川から取り入れて、用水路や排水路などを通ってまた川に戻ることわかりました。だから、川を大切にしなければならぬと思いました。

そこで、川のような役割について調べてみました。川は、たくさん水を安全に海まで流す治水という役割がありました。治水は、水害を防ぐこととでみんなの命や財産が守られて、安心して農作物が収穫できています。

また、利水という役割もあります。利水とは、川の水を使って飲み水や農業、発電などに利用することです。また、憩いの役割もあります。きれいで親しみやすい川は、みんなの遊び場となったり心をいやしてくれます。

これらの川の役割を理解し、感謝して水を使っていこうと思いました。川を大切にするには、一人一人の協力が必要です。川は、たった一人の努力だけではきれいにならないので、一人一人が気をつけることがたくさん

あると思います。川を守るために私たちができることは、川にゴミを捨てたりしないことや自然を大切にすることだと思いました。

日本では、川を守る取り組みをしているし水もきれいで、毎日おいしい米を食べることがができます。しかし、それは当たり前のことではないことがわかりました。調べてみると水の惑星である地球でも、安全な飲み水を確保できない人は二十億人もいることを知りました。また、安全な飲み水を得られないことが原因で、毎年百五十人以上の子どもの感染症によって死亡しているといわれています。水不足の原因は、水の使用量が増えていることです。人口が増加して使用する量が増えれば増えるほど、水不足は深刻になります。また、水を効率的に使っていないことです。地球上に水があっても、必要な時に必要な場所へ分配されていなければ、世界の水不足を解消することはできません。しかし、水の利用可能量は異常気象や降水量の変動などに左右され、不安定です。また、水源が守られてないことです。森林伐採によって水を蓄積していた森も減少したりするなど、水源が破壊されています。

水不足問題を解決するために水の利用方法を見直し節水を心がけたいです。水が当たり前にあることに感謝しながら、水を使用していきたいです。川を守るために一人一人が協力し、自然を大切にしていきたいです。また水は私たちが生きていく上で必要不可欠なので、きれいに保てるように努力していきたいです。水の大切さを改めて理解し、生活できていることに感謝し、節水を忘れずに水を大切にしていきたいと思えます。

## 水の恵みを繋いでいく

和歌山県立向陽中学校 二年 太田 早紀 おおた さき

那智の滝。この滝の名を、日本人であれば誰もが一度は聞いたことがあるのではないか。和歌山県那智勝浦町の那智川にかかるこの滝は、世界遺産に登録されている日本の宝だ。その歴史は深く、滝そのものを神として、古来から信仰されていたという。和歌山県を観光するのであれば、確実に訪れるであろうこの滝の最大の魅力は、ずばり自然にできたとは到底思えない、山の中を流れる重々しく迫力満点の景色ではないか。一段の滝では日本一といわれている落差は、百三十三メートル。三十五階建てのビルと同じくらいの高さである。この滝を見るために日本へ来る外国人観光客もいるほど、和歌山県を紹介する上では欠かせない観光スポットである。

私は、小学生の頃に家族と那智の滝を見に行ったことがある。長い階段を上がり、非常に歩き疲れていた。あまり景観に興味を示していない時期だったので、疲れて不機嫌だったことを覚えている。しかし、最後の一段を上がり、その先に見えた景色に、そのような感情は忘れ去った。圧巻だった。まるで別の世界へ来たような自然の美しさに感動した。今でも時々、テレビなどで取り上げられているものを見ると、その時の感動を思い出す。それほど、水が表現する自然に目を奪われてしまった。

私は、そのときに見た滝が、千年以上も前からあったといわれていることに驚いた。そして、これほど長い間、滝が存続することができたのはどうしてだろうと疑問に思った。

滝は、山地に降った雨水が地面に吸収され、わき水となって、川に流れたものが滝として流れるという流れの繰り返しで成り立っている。この仕組みがずっと昔から続いてきたと考えると、自然の力とは凄まじいものだ

と改めて実感する。

しかし、この仕組みでは、山地に雨が降らないと、水量が足りず、水の流れが止まってしまふ。実際、過去に滝の流れが止まった所もあるらしい。この場合、雨が降らないと滝は完全になくなってしまふのだ。他国の世界遺産に登録されているような有名な滝であっても、この被害は避けられない。また、それは那智の滝も例外ではない。那智の滝を取り巻く森林は、高度経済成長期に建築用材として多くが伐採され、滝の水量が減り、枯れるかもしれないと心配された。森林が減ると、降水量は変わらなくても、吸収できることのできる水の量は減少するためである。その後の対策により、滝が枯れることへの心配は和らいだというが、那智の滝を今後も守り続けていくため、「那智の滝保全委員会」が作られた。森林、水資源、景観の保全に取り組み、今の状態を百年後も維持できることを目標に掲げている。

私は、自然に恵まれ、水に恵まれた日本だからこそ、このような素晴らしい景観が実現できているのだと思う。だからこそ、この自然に感謝して、責任持ってこの状態を守らないといけないのではないか。私が見て感動したあの景色が、何百年先も実在してほしい。

## 水の大切さ

開智中学校 一年

こはら あかり  
小原 朱加里

私は小学校3年生の時に自由研究で川にいる魚のことについて調べました。その魚はきれいな水の所にしかない川魚だという事が分かりました。さらに調べると、和歌山にはたくさんさんの湧水があるそうです。例えば和歌山市の紀三井寺にある清浄水です。この湧水は「紀三井寺の三井水」として名水百選に選ばれています。周囲には松尾芭蕉や紀州の俳人の句碑があります。他には和歌山市三葛にある「瀧のぼりの清水」として親しまれている吉祥水や、和歌山市紀三井寺にある病から救ってくださるというありがたい水として喜ばれてきた楊柳水、田辺市秋津川にある昔から修験道者、商人など行き交う人の多くが、のどの乾きをいやし休憩をとったと言われている、ふる道の水のみ等々、他にもたくさん湧き水があります。和歌山の水はきれいだという人が大半で私も自由研究で調べた事からそう感じています。理由は川へ遊びに行った時や、海へ遊びに行った時、たくさん人がいましたがにぎやかな事なく川にはたくさん魚がいて、水は澄んでとてもきれいだと思ったからです。

和歌山の水がきれいだからこそ湧水がたくさんあったり、観光客でいっぱいになる川、海があったりするんだと思います。そのためにはその自然を守ろうとしている人がたくさんいるからなんだと思います。そのきれいな水を守るにはどのような事をしたらいいのでしょうか。実は、川の汚れの9割以上のほとんどが私達の生活によるものであり、自分たちの家の台所、お風呂、トイレなどの汚れが川を汚す原因の約8割と言われています。それを減らすには私たちにも簡単に出来る事なのです。例えば食べ残し、飲み残しを出来るだけ少なくする。川に絶対にゴミを捨てないよう

にする。シャンプー、リンスを使いすぎない。米のとき汁は庭などに撒いたり、お風呂の残り湯は洗濯に使ったりなど、水質汚染をしないよう一人ひとりが自覚を持つ事が大事だと思います。

2年前、紀ノ川にある水道管が崩落したことを覚えていますか。私は被害を受けていませんが、友達が水道管の被害によって一週間、水の供給がストップしてしまいました。友達は水が戻ってきた時に、「水がなかったら何もできやんから大変だった」と言っていました。自分も、もし水がこなかったら、友達のようにとても大変な思いをしただろうと思いました。私は「水は日常で一番大切なものだ」と思っています。もし、水が無かったら、お風呂にも入れないし、ご飯も炊けないし、洗濯だってできないので生活の半分は失われると思っています。

アドベンチャーワールドへ家族で旅行に行った時、海獣の飼育員さんが動物の話しながらSDGsの事も話してくれました。海面が少しずつ地球温暖化によって上昇している事や北極の氷が溶けて北極グマの住むところがなくなってきた事など色々大事な事を話してくれました。その中で私が一番印象に残っている言葉が「水は無限にあるわけじゃ無いんだよ」と教えてくれた事です。それから私は水を無駄に使わないでおこうと思います。水という大切な資源を絶やさないために、自分も身近なところから出来る事は無いか、今までの生活を振り返りたいと思います。



## 日本と世界の水

和歌山県立田辺中学校 三年

西 にし 美夢 みむ

「日本の水はきれいである。」ということを目にするには、多いように思います。「外国では、水道水を飲むとお腹を壊してしまう。」というのも聞いたことがあります。私は、小さい頃からそう思い生きていますが、実際にどうなのかは分かりません。私は外国に行ったことはないですが、テレビで見るとはよくあります。その水が汚れているとは思いませんし、日本と違いがあるようにも思いません。しかし、「日本の水はきれい。」というイメージを持っている人がいるということは、何らかの根拠があるのだと思います。

まず、私は日本の水道水について調べてみました。日本の水道水と世界の水では、水質基準が違うそうです。日本では、「水道法」という法律によって、水道水の基準が非常に厳しく定められているのです。だから、私たちは安心して水道水を使ったり飲んだりできています。日本で水道水に行われる検査は二〇〇種類と言われており、この数字からも日本の水の安全性が伝わってきます。

次に、日本の川などの自然の水について調べてみました。日本の川のきれいさを考えるときに、私は歴史で学習した足尾銅山鉱毒事件を思い出しました。この事件では、有害な排水に川が汚染され、土地の稲が枯れ、川の生き物は大量に死んでしまいました。これは人にも影響をもたらし、およそ一〇六〇人の死者が出たそうです。この事件をはじめ、日本ではさまざまな公害が起こってしまいました。現在の日本では、公害を防止するための政策がとられており、世界で見てもきれいな川とされています。私は、産業が発達することにより、水が汚れてしまうことがくり返されてはなら

ないと思います。しかし、過去にこのようなことがあったからこそ、現在の日本の水はきれいなのだと思います。

日本の水の現在や過去について知り、考えると、次は日本の水の未来が気になりました。日本の水の未来について調べてみると、私は衝撃の事実を知りました。なんと、現在の日本では水を外国から輸入していたのです。水をそのまま輸入するのではなく、バーチャルウォーターとして輸入しているのだそうです。日本は輸入大国なので仕方がないと思っけていても、外国の人はとても困ると思います。なぜなら、今でもきれいな水が手に入らない人がたくさんいるからです。私は、日本が日本のきれいな水を世界に発信していかなくてはならないと考えています。川の水をきれいにする技術、きれいにした水を検査する技術、使い終わった水を処理する技術など、どれも日本は優れていると思います。このすばらしい日本の水の技術を世界に発信し、世界中の人が安心して水道水を使えるようにするのが日本の使命ではないでしょうか。

このように、日本の水はきれいであり、私たちにとっても大切なものです。しかし、日本でも水が汚染されてしまったことがあります。それを乗り越えたからこそ今の日本があるのだと思います。世界中の人のともにきれいな水が届いてほしいです。

## 断水時の備えを大切に

和歌山県立向陽中学校 二年 村田 安咲実  
むらた あさみ

二〇二一年一〇月三日、紀の川以北地域の約六万戸が断水した。紀の川以北に水を送る唯一の水管橋が崩落したためだ。私の自宅も断水の被害を受けた。

母の知人から、断水するかもしれないと聞いた。最初はあまり実感が湧かなかったが、とりあえず、お風呂に水をためた。断水するとしても、少しの間だろうと思いい、満水にはしなかった。そのあと、一日分の食事の支度をした。

夜の九時頃、断水するという放送が流れた。しかし、その日の晩は水が出たため、強い危機感がなかった。そのときは、他の送水方法があると思っていたのだ。

次の日、お風呂にためた水や、災害時のためにストックしていた水を使ったが、どんどん減っていき、あつという間になくなってしまった。そこで初めて、現状を目の当たりにした。

幸い、学校に給水車が来てくれたので、水をもらえた。しかし、蛇口から水が出ないため、炊事、トイレ、洗面などが今までのようにできない。お風呂に入るには、たくさんのお風呂が必要で、やかんでしかお湯が沸かせないので、大変だった。

実際に使った水の量を記録したものが残っている。炊事では、紙皿や割りばし、紙コップなどを使って節水を意識しても、家族四人で一食約二十リットル使った。トイレでは、初め上手く流す方法を知らなかったため、一回で約十五リットル使った。お風呂は、お湯につからず、髪と体を洗うだけでも、一人約六十リットル使った。合わせると、家族四人で一日約三

百四十リットル使った。

日本人一人が一日に使う水の量は、約二百リットルだと言われているので、普段は断水時の二倍から三倍使っている。どれだけたくさんのお水を使っているのかを実感した。六日後に断水が解消され、普段当たり前に蛇口から出てくる水が、とてもありがたいものだということに気づいた。

早急に水管橋の工事をしてくれた方、給水車で水を運んでくれた方、給水タンクを貸してくれたり、心配の連絡をしてくれたりした方など、たくさんの方に感謝を伝えたい。

今回は、狭い地域でしか断水にならなかったが、大規模な地震が起こった場合、広い範囲で断水になる可能性がある。突然起こるため、水をためておくこともできない。さらに、停電など、他のライフラインも切断される。すぐには給水車に來てもらえないが、水は生きる上で必要不可欠だ。水がない状態が何日続くかも分からないため、備えが重要になるだろう。

災害時のための水はストックしてあったが、全然足りなかった。それは、断水に対する意識が低かったからだと思う。断水を経験して、どれだけ水が大切なのか分かった。もし大きな災害が起きたとき、飲料水とトイレに使う水は最低限必要になる。給水車が来るまで三日分は用意しなければならぬ。個人によって必要な水の量は変わる。もう一度ストックを見直すことが必要だと思う。

断水に対して強い危機感を持たなければならぬと思う。また、普段当たり前に水が出る環境に感謝し、水を大切に使うと思う。

## 水の危険性

和歌山県立向陽中学校 二年 岩橋 由奈  
いわはし ゆな

私は、何年前まで「水」について、良いイメージしか持っていませんでした。それは私の祖父母が農家だからです。祖父母が野菜などを育ててきているところを小さい頃から見て来ました。すると、きゅうりは花が咲いたあとは毎日水やりが必要だったり、稲は水田に植えないと成長しなかつたりと、その全てに水が必要不可欠なのです。だから、水は大切に無いと困るもの、というイメージしか持っていませんでした。それが悪いというわけではありませんが、海や川でも「気をつけよう」などという気持ちは全くありませんでした。言い換えると水を甘く見ていたということですが、しかし、これからは水に適度な危機感を持って接していこうと思っています。また、水害に巻き込まれる人や野菜を無くすための行動もとっていきたいです。そう考えるのはこのような経験をしたからです。

何年前の六月の中頃、祖母が黒いブルーベリーのような硬い粒を、育苗ポットに植えていました。何をしているのかを聞いてみると、枝豆を作っているのだと教えてくれました。まずここで枝豆の苗を作り、六月末くらいになると畑に植え変えるそうです。それまでは水やりが大切なようで毎日水をやっていました。そして八月、枝豆は畑で、すくすくと成長していたようですが、大雨が降ったのです。これは異常気象だと祖父母は言うていました。そして降水量が多すぎたせいで川が氾濫してしまっただけです。さらに、その水が枝豆を植えていた畑に流れ込んでしまい、枝豆は水没してしまいました。それだけでも大変なことですが、祖父がその様子を見に畑に行ったのです。そのことを聞いた時、私はベランダから別の小さい川を見てみました。すると、流れが普段の数倍速く、色も茶色く濁っており、

とても水に見えません。私はその時初めて水が怖くなりました。祖父がこのような水に飲み込まれてしまったらどうしようかと考えたからです。その後、祖父は無事帰ってきましたが、千株ほどあった枝豆は、すべて食べ物になりませんでした。祖父母はとても辛そうでした。

この経験から私は、水は枝豆や野菜を育てるのに必要で大切なもののだと思っていました。人や野菜、畑などを簡単に飲み込んでしまう危険なものでもあると気付きました。だから私は、水の恵みを忘れず、適度な危機感も持ちながら水と関わっていこうと思っています。また、今回の大雨は異常気象で、もしここまで温暖化が進んでいなければ起きていなかったかもしれません。だから、これ以上温暖化が進まないように、水害に巻き込まれる野菜などが増えないように、自分にできる取り組みをしていきたいと改めて感じました。そして私だけでなく、みんなもできることをしていき、異常気象が減るといいなと思います。そして、水害に巻き込まれる野菜や人だけでなく、そのせいで辛い思いをする人も少しでも多く減ってほしいです。

## 湧水

和歌山県立田辺中学校 三年

岩間 いわま幸多 こうた

「きれいな水」と聞くと、私は祖父の実家の近くを流れる小さな小川を思い浮かべる。そこは豊かな森に包まれていて、空気は澄み、苔の心地よい香りが漂う大自然の中にある。穏やかなせらぎを奏でているその川は、夏でもかなり冷たく、驚くほど透き通っていた。ひとたび川底に視線を向けると、地面から少しずつ水が湧き出ており、その周りをエビやカニをはじめとする多様な生き物が住処としている。その湧水は、私の心を落ち着かせると同時に大自然がもつ大きな生命力を与えてくれた。これをきっかけに私は「湧水」について調べていくことにした。

まず湧き水には主に三つの利用方法がある。

一つ目は、水道水源（飲料水）としての利用だ。水は私たちが生きていく上で最も重要で基本なものだと私は思う。湧き水は地下で濾過された新鮮な水であるため、飲用としてとても優れている。また、湧水は水源が固定されており、汚染源から離れている場合が多いため水質が比較的安定しているようだ。日本は地震や台風などの自然災害が頻繁に発生するため、そのような状況下でも飲み水を確保できるようにと、昔から人々は湧水を大切にしてきた。私の祖父も子どものころは湧水を川から汲んできて、飲用に利用していたそうだ。

二つ目は、農業用水、産業用水としての利用だ。湧水は多くの田畑で利用されてきた。特に水質がよい湧き水は、魚などの養殖やワサビ栽培にも利用されている。湧水は一般的に大気中の酸素を多く含んでいて、風味が豊かで、特定のミネラルを含んでいるものもある。そのような湧水を使ってその地域ならではの特産品を作ったり、湧水そのものをミネラルウォーター

ターとして販売したりもしているそうだ。

三つ目は、景勝地としての利用だ。湧水が多く湧く場所は美しい自然環境や豊かな生態系が広がっている場合が多い。そうした場所は、レジャースポットとしての人気が高く、多くの人々にとってリフレッシュ、リラックスできる場となっている。また、自然や生態系を学ぶ環境学習の場としても利用されている。

このように湧水は日本にとってとても重要な存在だ。

しかし、最近この湧水の水量減少・水質悪化が進んでいるという事実をネットニュースで耳にした。湧水は地下水が自然の状態では地表に出てきたものなので地下水の状態が悪化してしまうと自ずと湧水の状態も悪化してしまう。この原因の一つに「人間の活動による水源周辺の環境の悪化」がある。例えば、地下水の過剰なみ上げや森林伐採、不法投棄、気候変動などだ。

今回、湧水について調べてみて、私たちはこの問題を解決するためにより一層環境保全に取り組まないといけないと強く感じた。具体的には、川周辺のゴミ拾いや下水の適切な処理、節水などだ。これらのことを地域の人、行政、企業と協力して取り組んでいけば日本中の湧き水、その他自然環境が守られていくはずだ。より多くの方に協力してもらうには、浄水等の保護の重要性、美しさを知ってもらう必要があると思う。

今日も祖父の実家の近くの小川には透き通った美しい水が湧いている。

この美しい自然と、自然がなくなぐたくさんの命を、ずっと先の日本の未来まで残していけるように頑張りたい。



## 水を守る気持ち

開智中学校 一年 上野 和也

うえの かずなり

ぼくが、「水」という言葉から真っ先に思い浮かべることは、生き物にとつて、なくてはならないものだということです。特に人間にとつて、とても重要なものだと思います。なぜなら人間は飲み水だけではなく、生活用水として大量の水を使っているからです。さらに飲み水は他の生物と違い、清潔な水が必要としています。

飲み水についての体験を書いていこうと思います。

まず一つ目は小学三年生の時、家族でオーストラリアへ行った時のことです。その時、衝撃だったのは、日本では蛇口から出てくる水を飲めるけれど、オーストラリアでは蛇口から出てくる水は飲めないのです。飲み水は必ず買わなければならないということです。スーパーマーケットに買いに行くと、ジュースよりもミネラルウォーターの方が値段が高かったことも衝撃でした。また、外食したとき、日本では、最初に水が出されるのに、水は注文しないと出てきませんでした。後でよく海外旅行する人から、「水道水が安全に飲める国は、日本以外は少ないよ」と聞いて、納得しました。そしてぼくは、そんな大切な水を日本では結構な量を無駄遣いしていることがとてももったいないと思います。今の日本は水が豊富にありますが、地球温暖化などの影響で今ほど水がない状態になるかもしれません。現実でも、夏に雨が少なくダムの貯水量が少なくなり、使用制限も起きています。今は制限がかかることは少ないですが、今後増えていくかもしれません。この貴重な水を大事に使うために節水の意識を持って生活していくことが大切です。

二つ目として、水の大切さがよく分かった体験を書いていきます。ぼく

が小学五年生の十月に六十谷水管橋の崩落事故が起きました。その影響で紀の川以北の多くの地域で断水が発生しました。ぼくは断水の影響は紀の川以北の地域だけだと思っていました。しかし、紀の川以南のぼくが通っていた小学校でも、水道は出ましたが、給食の「ご飯」が「パン」に変わりました。なぜなら、ライスセンターが断水になり、お米が炊けなくなつたからでした。断水の影響を直接受けた地域の人たちは本当に大変だったのだらうと思いました。

このように、水が使えなくなると工場やインフラが止まって、直接被害を受けた地域以外の人にも、影響が出てくることが分かりました。断水にならないために水の設備の管理や点検はきちんとやらなければならないと思います。

日本は水資源に恵まれています。世界の中には干ばつなどで水に困っている人たちが沢山います。日本で暮らす私たちは水に困っている海外の人たちがいることを他人事と考えずに、世界中の水不足について考えて、行動していくことが重要だと思います。日本の技術で汚水や海水を飲める水に変えたり、井戸を掘ったりして、海外で活躍している日本人を、テレビで見ることがあります。こういうことは積極的にやっていくべきだと思います。江戸時代では、川の上流に住んでいる人は水を汚さずに生活していたようです。なぜなら、下流の人たちが汚れた水を使わないですむように、配慮していたからだそうです。この時代の人たちのように水を大切に思う気持ちを現代の私たちも見習わなければいけません。地球は太陽系のなかでも唯一の水に恵まれた惑星です。だからこそ、水を大切にし、守っていくことが重要です。

## 海ごみ問題について考える

開智中学校 一年 笠原 來夏

かさほら らいか

小学六年生になったばかりの春、担任の先生に連れられて私たち六年一組三十二人は小学校の近くの片男波の海へ行った。「足だけなら海につかっているよ。」と担任の先生が言ったので、みんな海に足をつけて遊んだ。中には服のまま泳いでいる男子もいた。私は「何してんねんあの人たちは……」と思いながら仲良しの友達三人と水をかけあつて遊んでいた。いっばい水をかけてやろうと両手いっぱい水をすくった時、空のペットボトルのごみが私の目の前に現れた。それを見て私はふと思いついた。砂浜を歩いた時にも、私は何本かペットボトルのごみを見かけたのだ。

私は手を止めて海を見渡した。どこまでも続いているようなきれいな青色の海には、いくつかのごみがプカプカと浮いていた。ペットボトルだけではなく、空き缶やお菓子の袋まである。そういうごみを「海ごみ」と言うんだと私は知っていた。

この海ごみは、海を汚染するだけでなく、魚やウミガメ、海鳥にも被害をあたえている。その内の九十二パーセントがペットボトルのようなプラスチックごみによるものなのだ。

例えば、ポリ袋を餌と間違えて食べてしまったり、漁網に絡まってしまったりして死んでしまうこともあるそうだ。私がとくにひどいと思ったのは、ウミガメの鼻にストローがささっていたという事件だ。そのウミガメは南米コスタリカ沖で研究者に見えられ、十分近くかけてストローを抜いてもらったそうだ。

このように海ごみは私たち人間の他の生物に被害をもたらしている。これだけでも充分皮肉なことだが、そういうごみを捨てているのは人間なの

が現実だ。このまま海ごみが増え続けると、近い未来、海を泳ぐ魚の量より海ごみの量の方が多くなってしまふ。そうならないために、まず私たちにできることは、海ごみの半分以上の割合であるプラスチックごみを減らすことだ。難しそうと思うかもしれないが、これは日常生活のちよつとしたことでもプラスチックごみの削減に役立つのだ。

例えとしてすぐにはできることを二つ挙げよう。

まず、買い物の際にレジ袋をもらわず、マイバッグを持参することだ。買い物した時にもらったレジ袋が使い終わった後に道に捨てられ、風で海まで飛ばされるといふケースも少なくないそうだ。そうならないために、レジ袋はもらわず、マイバックを使うことが海ごみを減らすことにつながる。一年前には、多くのスーパーやコンビニではレジ袋が有料化した。

二つ目は、プラスチック製のスプーンやフォーク、ストローを使わないようにすることだ。コンビニやスーパーでもらえるそれらはとても便利だが、もし海にポイ捨てすると、さきほどのウミガメのように海に住む生物を危険にさらしてしまうのだ。プラスチックのフォークの代わりにマイ箸を持ち歩いたり、ストローを使わずに飲んだりするなど、対策は充分にできる。また、あるカフェでは紙ストローを使用している。

このような対策を一人しただけでは何も変わらないかもしれない。けれど、一人ひとりが環境を意識してやっつけば、いつかこの片男波もごみ一つも無い本当に美しい海になるだろう。その一歩のために、私はペットボトルを拾って海から少しはなれたごみ箱の「ペットボトル」と書いたところに持っていたペットボトルを放りこんだ。そして、砂浜にあるごみを探しに戻った。





## ギギの住む川

和歌山信愛中学校 二年

こいだ ちはる  
恋田 千遙

ある日、祖父母の家の近くの、紀の川の上流にあたる谷川へ遊びに行つた時のこと。魚取り網を片手にガサガサと川に住む生き物を探していた。いつものようにしばらく探っていると、川の中に空き缶を見つけた。私は「こんな場所に捨てられていて嫌だな。」と思いながら、ゴミとして捨てるつもりで空き缶の中の水を出してみた。

すると、黒っぽくて五センチほどの魚が落ちてきた。まさか空き缶の中が魚の住処になっているとは思わなかったので、とても驚いた。それと同時に、何という名前の魚だろうと気になった。見た目はナマズのようにだけけれど、少し違う。まるでベールのような美しいひれを持っていた。バケツの中で左右にひれをヒラヒラとなびかせながら泳ぐ様子はとても印象的で、今でも初めて見たときのあの感動と、宝物を見つけたような喜びは忘れられない。

家に帰って調べてみると、その魚は、『ギギ』という名前の魚だった。ギギは、日本の在来種で、四対のヒゲと背びれにある毒針が特徴である。胸びれの関節をこすり合わせて「ギギ」と発音し、これが名前の由来となっていることが分かった。

そして、ギギという魚は、和歌山県では準絶滅危惧種に指定されていることを知った。準絶滅危惧種とは、現時点では絶滅する危険度は小さいが、生息している場所の変化によっては絶滅する危険度が高まる可能性がある種のことである。

私は、こんなに美しいひれを持った魚が将来、この川からいなくなるかもしれないことを知って、とてもさみしくなった。和歌山県のレッドデー

タブックには、このギギ以外にもドンコなど私の知っている魚が載っていて、悲しい気持ちになった。

その川が私は大好きで、小さい頃から祖父や父によく連れて行ってもらっていた。その川は、コンクリートの橋と川岸や川底の一部もコンクリートで整備されている。

そんな町中で目にするようなよくある川も、三十年ほど前は両岸が土のまま草が生えている自然豊かな川だった。「めだかはもちろん、サワガニやスッポンもいたんだよ。」と話す母はとても懐かしそうだった。今でもオイカワがいるほど、綺麗な水を保っていることに、なぜか誇らしく感じ、わくわく胸が高鳴った。

ギギの他にもその川には、綺麗な川の象徴であるヤマトヌマエビやバラタナゴなどの生き物がたくさん住んでいる。そのような場所にギギという準絶滅危惧種がいるなんて思ってもいなかった。しかもギギは、人間が捨てた、自然環境にはふさわしくない空き缶を住処にしていたことに、なんとも言えない気持ちになった。このままいつまでも生き物がたくさんいる川であってほしいと思った。

そこで今の私にできることは何かと考えた。すぐに思いついたのは、川を綺麗にするためにゴミ拾いをする事だった。祖父母の家に行った時、父とその川に行き、ゴミ拾いを行った。一回目は、川の中には空き缶などのゴミがなかったのですが、周りに落ちているナイロンやマスクなどのゴミを集めた。二回目に行った時は、川の中にペットボトルが浮いていた。ニュースで、海に流れ着いたペットボトルなどのプラスチックが分解されず海洋生物の命に関わることを思い出して悲しくなった。

その後、祖父母の家に行く度にできるだけその川に行くようにしている。祖父母もウォーキングのついでに時々、川のゴミを拾っていると聞いた。小さな行動かもしれないけれど、何もやらないよりはやった方が良いと思う。川が少しでも綺麗に保たれ、準絶滅危惧種などの生き物が減らないように、様々な生き物を発見した人が嬉しい気持ちになる機会がたくさん増えたら良いと思う。

## 「ホタルの光」を届ける

和歌山県立田辺中学校 三年 鈴木 愛乃

すずき まの

私の家には毎年の恒例行事がある。それは、ホタル観賞だ。真つ暗闇の中、鮮やかに光る約一週間の生命。その光が作る神秘的な空間。ホタルの光は私たちの心を浄化してくれる。私はホタル観賞が大好きだ。また、昨年学校で学習した「枕草子」には、

「夏は、夜。月のころはさらなり。闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。」

とあり、ホタル観賞は遠い昔から夏の風物詩として多くの人に親しまれてきたことが分かる。ホタルの光は日本人の生活を彩ってきた。

しかし近年、この美しい情景が失われつつあるのだ。そして、その大きな原因が水質汚染である。

ホタルが生活するために必要な条件は大きく分けて二つある。

一つは、酸素が多く溶け込んだ綺麗な水があることだ。ホタルは幼虫の期間を水中で過ごす。また、餌となるカワニナなどの巻貝は酸素を多く含んだ綺麗な水が必要とするため、ホタルも必然的にそのような場所でなければ生きていけないのだ。

もう一つは、周りに湿った柔らかい土があることだ。ホタルは土の中でさなぎになるため、潜ることができないような踏み固められた固い土では、さなぎになることができない。また、土の中で幼虫から成虫になる体づくりにするため、この条件はホタルにとってとても大切だ。

このように、ホタルは水と密接な関係にあり、自然が豊かな環境が必要だ。そして、水質汚染がホタルにとっても大きな影響を与えていることが理

解できる。私は水質汚染について調べることにした。

まず、水質汚染とは、河川や海洋などの水質が悪化することだ。また、持続可能な社会の実現を目標として掲げられている「SDGs」にも水質汚染に関連する項目があるように、水質汚染は世界で問題視されている環境問題の一つである。

水質汚染は火山活動や台風などの自然災害によって起こることもあるが、一番の原因は私たちの生活によって生じる生活排水だ。洗濯、入浴、炊事。私たちの生活には水が欠かせない。これらによって生じる排水はほとんどが下水処理場で処理される。しかし、窒素やリンのように完全に除去することが難しい物質があるのだ。また、人手不足や下水道施設の老朽化などにより、下水道施設の将来性が不安視されていることも事実だ。

ホタルは、このような水質汚染によって餌となる巻貝が減少したことにより、年々減少してきている。また、護岸工事や埋め立てにより、ホタルの周りから柔らかく潜りやすい土が失われたことも原因の一つだ。

ホタルを守るために私ができること。それは、水は地球上に生息する全ての生物にとってかけがえのないものであるということ胸に刻み、一滴の水も無駄にしないことだ。

振り返ると、私たち人間は今まで、自分にとって都合の良いことばかりを行ってきたように思う。そして、その行動は水を汚し、ホタルや他の生物のすみかを奪い、たくさんの美しさを壊してきた。これからの私たちにとってとても重要である水質汚染の問題を改善するためには、他の生物に与える影響を熟慮し、水を正しく使うことが大切だ。

今の私ができることは、節水という小さなことだけだが、この行動が綺麗な水、豊かな自然を生み出す一歩となれば嬉しい。そして、水の恵みをもたらす「ホタルの光」がこれからも多くの人の心に届くことを願う。

## 人間の柱「水」

開智中学校 一年 藤田 朋也

ふじた ともや

「今から少しでも多くの入れ物に水を入れて。」と母の声。今から二年前の十月三日午後七時三十分市放送から断水するということが聞こえてきました。市のホームページで調べてみると、水道橋が崩落したと書かれていました。あわてて家族全員でバケツに水を入れていきました。しかし、まだ水がたりないのではないかと不安に思ったので、家にあるコップ全てを使って水をためていきました。その日の夜、布団の中で「これからどうなるのだろう」と不安になりました。

朝になりついに断水生活が始まりました。ためていた水を大切に使いながら顔を洗ったつもりでしたが、顔を洗い終わりニリットルのペットボトルを見ると、半分以上がなくなっていました。そして、トイレに行くとバケツの水を三杯も流しました。何をするにしても水をたくさん使用するのだと思いました。それと同時にじゃ口から水が出てこないことの不便さに困りました。ためていた水はみるみる無くなっていきました。そのとき、給水車が来るということを聞きました。大きなポリタンクを持って給水所に行きました。そこには各地から来た給水車が並んでいました。私のポリタンクに水を入れてくれた伊賀市の人は朝早くから出発して来てくれたそうです。水をもらえてありがたかったと思う気持ち以上に、こんな遠くまで朝早くから来てくれた人たちの気持ちももらったような気がして私の心はすごく温かくなりました。また、私の通っていた小学校の近くは独自の水道を使用している地域があり、その地域の方々の協力で小学校のタンクに水を入れてもらえました。そのおかげで小学校は一日だけ休みで、すぐに普通通り再開することができました。しかし、家に帰ると水は出ないま

まで水を大切に使う生活でした。

それから七日後、断水が解除されたとの放送が流れ、「やっと普通の生活ができる」と思い、ほっとしました。水道のじゃ口から水が出てきた時、本当にうれしかったことも覚えています。しかし、いざお風呂にお湯をためると濁った水が出てきました。二、三日すると何もかも普通通りの生活にもどることができました。

この断水の経験を通して水がないと私たちは生活ができないことを感じました。水道のじゃ口をひねるとききれいな水が出てくるのが当たり前の生活ですが、それは当たり前のことではなく、様々な人々のおかげでなりたっていることだということを感じました。そして、様々な人々のおかげで利用できる水は、大切に使わなければならないことも今回の経験を通して身をもって感じました。

また、水を通して新たなことを知ることができました。それは、水を提供してくださった地域の方々、給水車で水を運んでくださった各地の方々の心の温かさです。困った人々たちをなんとか助けようとしてくれた人々の気持ちは、水と共に私の心の中に運ばれてきたように思いました。普段は当たり前前に思い、水というものについて考えたこともありませんでしたが、断水によってどのように水を使ったらよいのか、どのようにして水は各家庭に運ばれてきているのかなど、水について考える機会をもらいました。そして、水を通して人とのつながり、人の心の温かさを感じました。このような水は、私にとつとでも大切な宝物です。そして、この宝物は無限にあるものではないので、大切にしながらこれからもずっと残していきたいと思えます。



## 生きる

開智中学校 一年 山下 穂乃 やました ほの

帰り道、小さな川を見ると、沢山のゴミが浮かんでいるのが目に入る。世界的問題になりつつある水質汚染の重大さを、私達はどれほど知っているのだろうか。

まず、地球上の水は約14億 $\text{km}^3$ といわれている。そのうち人間が使いやすい水は、たったの0.01%だ。0.01%がどれぐらいなのか、分かりやすく考えてみよう。一般的な浴槽200ℓを地球上すべての水だとしたとき、0.01%は20ℓ、およそスプーン1杯分だ。この量の水が汚染されると私達の生活は一体どうなってしまうのだろうか。考えただけでゾッとしてしまう。

水質汚染が進むとどうなるだろう。現在、カンボジア・メコン川に生息する川イルカは水質汚染による死亡が確認されている。また、世界で毎年2億5000万人以上の人が水質汚染による病気にかかり、苦しんでいるという。こんな現実から目を離していれば、何も変わらず水質汚染は進んでいくばかりだ。そこで私は、少しでも力になれるように自分たちができることを考えた。一つ目は、油汚れを先にふきとり、油をそのまま流さないこと。余った油は継ぎ足して使ったり、炒め物に使ったりして、出来るだけ捨てない努力をすることで、きつと少しの力になる。二つ目は、洗剤・シャンプー・リンスの適量を守ること。多く入れることで汚れ落ちがよくなるわけではない。適量を守り、無駄使いしないことを心がけて生活していきたい。こんなことぐらい……と思うかもしれないが、沢山の人が知らず知らずのうちにやっちゃってしまっていることだと私は思っている。ここまで説明したが、もちろん一番大切なのは世界中の人々が対策を続け、世界が動

くことだ。だからといって対策をするのもしないのでは、明らかに違いが出るだろう。帰り道の小さな川も、みなさんが見るいつも通りの川や海、湖に少しずつ変化が出ると、私は信じている。

また、みなさんは水不足が進んでいることを知っているだろうか。その水不足に拍車をかけているのが、今回のメイン、水質汚染である。アフリカ等では、都市部を除いたほとんどの場所で水道設備や浄水施設が整備されていない。それにより、アフリカの人々は、泥や細菌、虫などが混ざった水を飲まざるを得ず、感染症に感染し、命を落としている。自分達が知らない場所で、多くの人が苦しんでいるのだ。ただでさえ、水不足が進んでいるこの世の中。少なくなってきた水も汚染されてしまえば、今後何億人もの人達が苦しむことになるだろう。この現状に対して、一番効果があるのは、世界が動くことだ。だが、私達にもできることがある。ここではくわしく語らないが、募金などの支援活動は私達にもできるだろう。

このように、世界は水不足や水質汚染、沢山の水問題を抱えている。地球上の水は、約14億 $\text{km}^3$ あるといわれているが、そのうち97.5%は海水、残りの淡水2.5%の7割は、南極・北極の氷である。自分達はいくらでも水を飲めるから、と過信してはいけない。水質汚染が進むこの現状を変えることが可能なのは、水に不自由のない私達だ。帰り道の小さな川がきれいに輝く未来を、期待している。

## 我が家の浄水場

和歌山県立向陽中学校 二年

山本

七夢

やまもと

ななみ

五〇〇ミリリットルの水のペットボトル、一一〇円。六〇〇ミリリットル、一二〇円。自動販売機で買う水はどれも高すぎる。といっても、水道水もお金がかかる。最近ではペットボトルの水さえも値上がりするのか。機械に書かれたはり紙を見ていつも思う。私は部活の時に水筒のお茶がなくなってしまうことがあるので、ペットボトルの水にはよくお世話になっている。いっそ、蛇口からでる水道水でもいいかな、と思うことも多々あり学校に設置されている冷水機から水をくむ。しかし、しよせんは水道水。世界中には水すら無くて困っている人がいるのに、欲には負けてしまう。ペットボトルの水が恋しくなってくるのだ。ラベルに書かれた「富士山」や「大山」という文字。これを見ただけでも、水道水と比べたら満足感の他ない。水道水も浄水場を通してあるので、汚れているわけではない。人が飲めるようにしてくれていることはとてもありがたいことだと思う。だが、その水をさらにおいしくするためにどうすればいいか考えどころである。私はそのことを親に相談してみた。そこで、我が家はあるものを導入することになった。ウォーターサーバーだ。それも水を上に取り付けるものではなく、浄水器のついたものである。水道の水を上タンクに入れることで浄水器が作動するタイプだ。これで、おいしい水道水がさらにおいしく飲めるようになった。それからは、我が家を支える存在になったと言っても過言ではないくらい活用している。家に帰った後すぐにでも、風呂あがりにでもいつでもおいしい水が飲めることはとても喜ばしいことだと思ふ。

このような経験から、私はふと浄水器の仕組みが気になった。普段お世

話になっているものだからこそ、中が気になるものだ。私はこの機会に一度調べてみることにした。そこで知ったのが浄水器では主に活性炭や中空糸膜フィルターによって原水を浄化していること。そして活性炭は、ヤシ殻等の炭素材を水との接触面積が増加するように加工したもので、汚染物質の吸着を効果的に行うそうだ。私はこれに深く感心した。ヤシ殻というような植物によって浄水が行われることを知り、おどろく気持ちの一方で植物の存在の偉大さにとっても感心した。また、その植物を育てるためにも水が必要である。水が無ければ植物が育たず、植物が育たなければ浄水器ができて、浄水器が無かったら水道にきれいな水が届かない。だから、植物から水まで長いつながりがあることが分かった。

ペットボトルの水から考えたウォーターサーバーの中では植物と水の関係が築かれていることにびっくりした。ウォーターサーバーという一つの機械の中で複雑な構造ができていて最後は水にたどり着く関係がおもしろいと思った。自然の関係がつながって飲む水はさらにおいしく感じると思う。身近な所で手に入れられる水に、自然にも感謝して飲んでいきたいと思ふ。



## 第45回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第47回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

### 1 応募要領

- ①テーマ・・・「水について考える」（題名は自由）
- ②対象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）
- ③原稿枚数・・・400字詰め原稿用紙4枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。  
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。
- ④あて先・・・和歌山県庁 地域政策課  
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL 073(441)2423
- ⑤応募期間・・・令和5年5月9日締切り
- ⑥版权等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。  
○応募作品の著作権は、主催者に帰属する。  
○応募作文の返却は行わない。

### 2 応募結果

応募 学校数	応募 総数	学年別		
		1年	2年	3年
校	編	編	編	編
8	553	240	241	72

### 3 審査

和歌山県審査において、優秀賞3編、入選5編、佳作10編あわせて18編の入賞作文を決定。

(協力 和歌山市中学校国語教育研究会)

### 4 表彰

#### (1) 賞および賞品

賞	賞品
優秀賞	賞状、図書カード
入選	賞状、図書カード
佳作	賞状、図書カード

#### (2) 表彰式

優秀賞の受賞者を令和5年8月4日、和歌山県庁において表彰

限りある水資源

# 8月1日は 水の日

私たちにできること

2023ミス日本  
「水の天使」  
竹田 聖彩



シャワーズは  
きれいな水辺に生息し、  
細胞が水の分子に  
似ていることから、  
「水の日」応援大使として  
「水の日」を応援しています。

ポケットモンスター

No.134 シャワーズ

タイプ 水

とくせい ちよすい

水循環基本法に基づき

8月1日が「水の日」と定められました。

8月1日から7日は「水の週間」です。



「健全な水循環」  
ロゴマーク

【主催】水循環政策本部、東京都、水の週間実行委員会ほか  
【後援】文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省ほか

「水の日・水の週間」に関する情報は各ホームページへ  
(首相官邸、国土交通省、水の日・水の週間)

© 2023 Pokémon. © 1995-2023 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc. ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。

<https://mizunohi.jp>

水の日 検索

